

サステナビリティ情報開示義務化(SSBJ基準)に向けた対応、および財務×非財務データを活用するESG経営実現を支援

SSBJ基準の有価証券報告書への法定開示に対応するための業務運用・システムの構築、および財務情報とサステナビリティ情報（非財務情報）のデータを活用したESG経営の意思決定実現を支援

世界的に乱立していたサステナビリティ情報開示基準は、ISSB開示基準への統一化が進んでいます。日本においてもISSB基準に倣い、SSBJ開示基準での有価証券報告書への法定開示が急ピッチで検討されています。

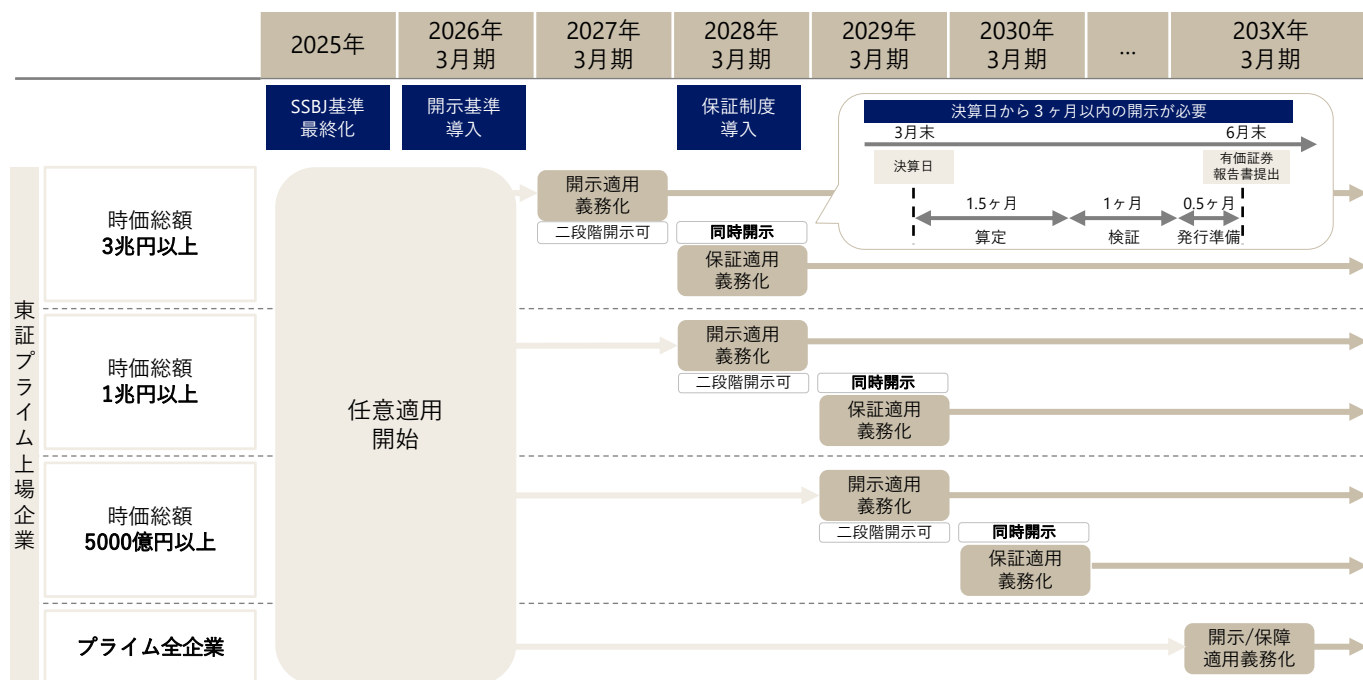
一方、企業においては法定開示に向けた体制整備や運用検討、およびそのシステム構築が順調に進んでおらず、スピード感に追従できていないケースが散見されます。

アビームコンサルティングは、SSBJ開示の対応に向けたサステナビリティ情報の一元管理・見える化、およびサステナビリティ情報（非財務データ）と財務データの分析・ESG経営に活用するための基盤構築を支援することで、企業価値の向上に貢献いたします。

迫りくるサステナビリティ情報開示義務化（SSBJ基準）

時価総額3兆円以上の企業におけるSSBJ開示基準の適用義務化が2027年3月期から開始し、その後時価総額1兆円以上、5,000億以上と順次適用対象が拡大されます。対象となる企業はそれぞれ適用義務化のタイミングまでに、現状の開示要件に加え将来的な開示基準を見据えたデータ収集・管理の基盤構築や、第三者保証に耐えるデータガバナンスを担保しつつ有価証券報告書と同タイミングでの提出を可能とする運用プロセスおよび体制構築を進めていく必要があります。

SSBJ開示基準の適用対象・適用時期



企業が抱える典型的な課題



データが足りておらず データ粒度もバラバラ

サプライチェーン全体のデータ収集（スコープ3を含む）が不十分、部門ごとに提出データの粒度が異なりデータ加工に時間がかかる、等



データの正確性・透明性 を担保できていない

データのバケツリレーにより承認プロセスが不透明、属人的なデータ入力でミスが気づきにくい、等

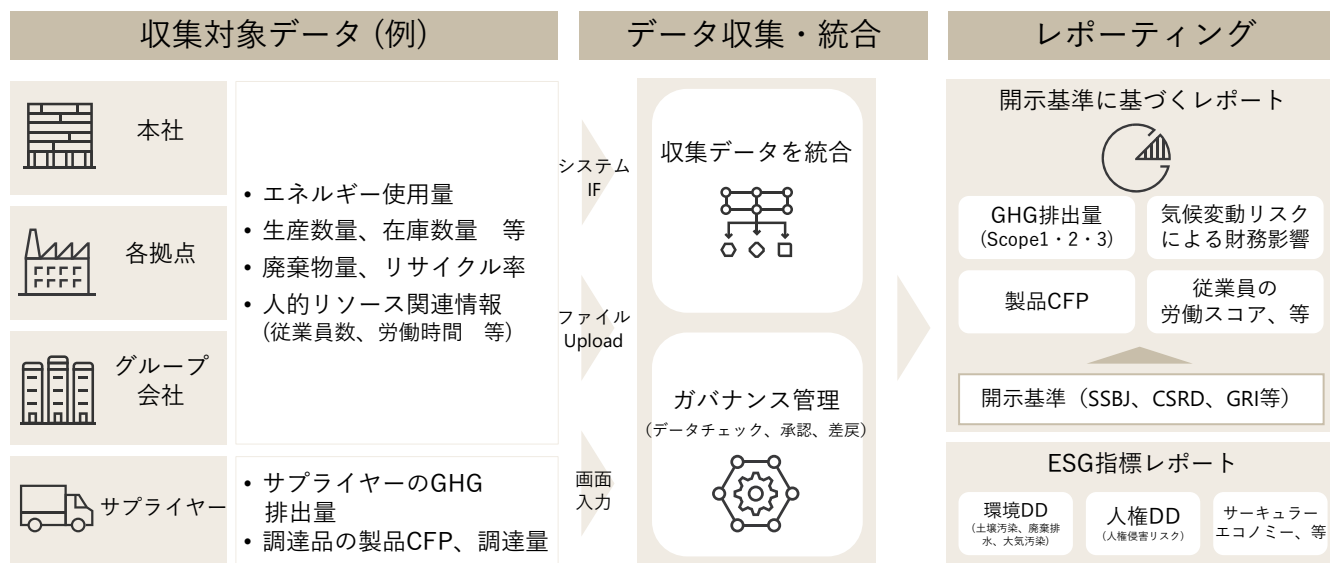


迅速な開示に対応する 体制構築が不十分

データ収集の迅速化のための取り組みが進んでいない、部門間で役割や責任範囲が不明確、等

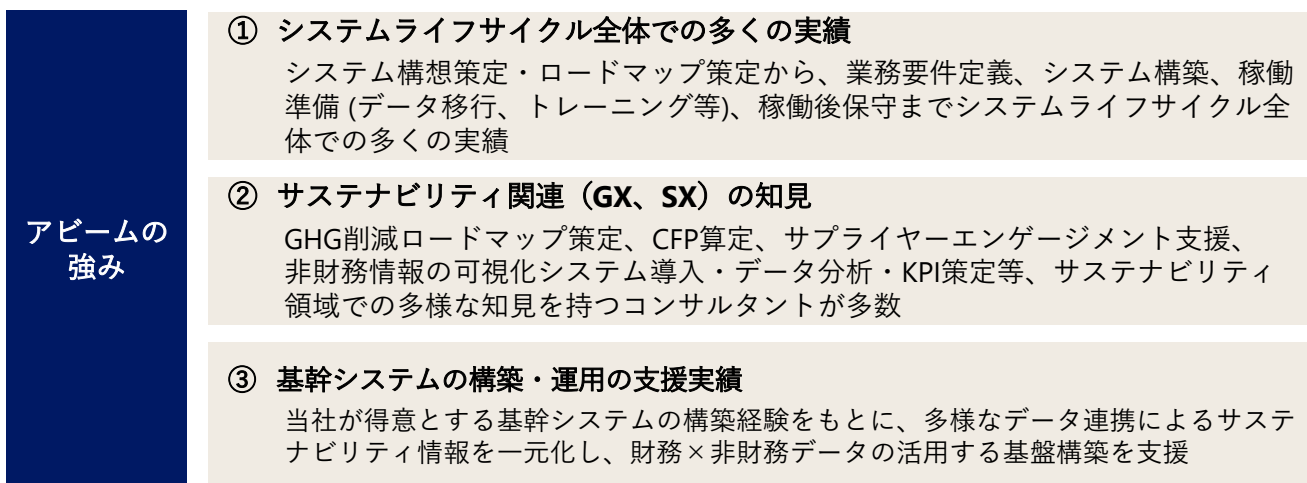
サステナビリティ情報収集・開示のシステム化によるデータの一元管理＋見える化

サステナビリティ開示のシステム化により、サイロ化された組織やシステムで管理する情報を効率的に集約し、適切な承認プロセスを踏まえた正確な情報として管理します。それにより、SSBJを含む多様な開示基準に準じたレポートの開示や、ESG指標ごとの分析が可能となります。



アビームコンサルティングが提供する価値

変化の著しい市場環境で企業価値を向上していくためには、開示義務化に対応するだけではなく、データ分析をもとにした迅速かつ柔軟な経営判断が求められます。当社は、多様なコンサルタントによる豊富な支援実績のもと開示義務化の対応を支援するとともに、サステナビリティ情報（非財務情報）と財務情報を活用する基盤の構築、および経営の意思決定を支援いたします。



本ソリューションのアプローチ

サステナビリティ情報を効率的かつ正確に収集・開示するシステムと業務運用を構築することで、有価証券報告書との同時開示（決算日から3か月以内）を実現します。また、そのシステムを機能拡張して基幹システムと連携することで、財務×非財務データを活用・分析できる基盤を構築していきます。当社は、将来的な目指す絵姿の検討からシステムの立ち上げ、業務運用まで包括的に支援いたします。

